

Weekly Bulletin 2012-2013



RI会長
田中作次



奉仕を通して平和を

静岡東ロータリークラブ

会長/戸塚敦雄 幹事/杉田至弘

事務局/静岡市葵区伝馬町9-3 芝田ビル3F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
戸塚敦雄

第 2614 回例会

平成 25 年 4 月 11 日 天候 晴

- 《司 会》 杉田至弘 君
- 《合 唱》 「君が代」「奉仕の理想」
- 《BGM》 「コンドルは飛んでいく・花祭り」
- 《ゲスト》 清水芸妓置屋共同組合 小鈴氏
- 《ビジター》 富士宮RC 望月和恵 君

《本日のお祝い》

お誕生日

4月16日 村松重治 君

結婚記念日

4月15日 足羽祐治 君

4月17日 山下勝男 君

《会長挨拶》

皆さん こんにちは

先週は観桜会に大勢ご参加頂きましてありがとうございます。親睦グループの皆さんお世話になりました。

今月はロータリークラブの雑誌月間ですので「ロータリーの友」についてお話してみます。

今月の「ロータリーの友」をお読みになつたでしょうか？世界中には30の各地域雑誌と『ROTARIAN』があり、各地域雑誌ではその発行地域のロータリークラブの活動を紹介するとともに、『ROTARIAN』から指定される記事をその地域で使われる言語に翻訳して掲載しています。これが『RI 指定記事』で RI 会長や財団管理委員長のメッセージ、「ロータリーの基本知識」「GLOBALOUTLOOK」等が代表的なものです。

ロータリーの友は1953年1月に創刊されました。その前年の1952年7月に戦後1地区だった日本のロータリークラブが東西2地区に分割されて、それまで一緒に活動してきた仲間同士これからも繋がりたいという思いで両地区の架け橋として「ロータリーの友」が誕生したのです。

「ロータリーの友」には表と裏の2面に表紙があります。当初は縦組みだけで始まったのですが、「俳壇・

歌壇」等の縦組みのページが登場して、現在では横組みには RI からの情報、ロータリー特別月間に関する特集といったロータリー地区雑誌としての公式な情報が掲載されています。縦組みには創刊当時の思いを継承して、日本各地にどのようなクラブがあって、どのような活動をして、どのようなロータリアンがいて、どのようなことを考えているのか、日本国内の仲間同士の交流の場であり、投稿記事が中心となっています。

『ロータリーの友』にはいくつかの投稿欄がありますが、それぞれに簡単な投稿規定があります。(ロータリージャパンのホームページにも掲載されています)活動報告等は時間が経過してしまった記事や、記念撮影的なもの、制限字数を超えてしまった原稿などは掲載されにくいようですが、なるべく多くのクラブの記事を掲載したいという編集方針だそうですので機会があったら挑戦して頂きたいと思います。

今月は雑誌月間ですので、これで会長挨拶とさせていただきます。

《来賓卓話》

清水芸妓置屋共同組合

子鈴(こすず)氏

「花柳界の歴史と今後」



静岡の芸者の歴史を説明致しますが、静岡地域と清水地域で生立ちの経緯が異なりますので別々説明いたします。

最初に静岡地域の芸妓衆の歴史は、慶応4年

(1868年)まで遡ります。当時の駿府の町(静岡)は東海道の中でも屈指の遊郭を安倍川町付近で形成していました。遊郭内には「廓芸者」と呼ばれる芸者さんがおり、後に現れる「町芸者」より歴史は古く、いつも廓の中にいましたが、芸を身につけていたことから遊女とは明確に区別されていたそうです。一方、「江尻町」「鍛冶町」「平屋町」「桶屋町」あたりには、町芸者

の置屋があり、廓とは関係なく、芸を身につけ宴席でお客様の相手をする町芸者の皆さんは、両替町を中心として仕事をしていました。

この駿府遊郭は、慶長13年(1608年)に家康の鷹匠である伊部勘右衛門が、家康から安倍川町の耶蘇寺跡を貰い受け始めたものと言われております。広さも東京ドームに匹敵する規模でありました。その後、駿府遊郭の庄司甚右衛門が同業者25人と遊女を引きつれ、江戸の「吉原遊郭」を作ったと言われております。当時、元禄5年(1692年)は50人程度であった遊郭も安政時代(1854)には300人規模まで発展し、その繁栄ぶりはすさまじいものでした。

静岡地域の芸妓(町芸者)の歴史は、明治20年の「コメ取引所の開設」や明治22年の「東海道線開通」によって発展し、当時、興津「坐漁荘」に居を構えた西園寺公のもとを訪れる「興津詣で」の要人も跡を絶たず、静岡の芸者は隆盛を極めていきます。大正12年の静岡市が発行したパンフレットには、284人の芸者がいたと記載されています。昭和初期が全盛期であり、その後の戦時体制と静岡市内の戦火で置屋も廓も消失してしまい、花柳界も苦難の道を歩くことになりました。

一方、清水地域は、東海道53次で有名な「清水みなと」の海運業の発展と密接に関連しています。現在の「港橋」付近でスタートした「清水港」は廻船問屋や船宿など海運関連の建物が立ち並び、清水町付近は大変な賑わいを呈します。清水の花街も「本町」の代名詞で表現されていました。その後、明治22年(1889年)に東海道線「江尻駅」の開業に伴い、賑わいの中心が江尻(現在の清水銀座)に移り、花柳界の中心も志茂町方面に移っていきました。明治39年に清水港が国際貿易港に指定され、大きく発展していきます。

昭和26年(1951年)に国内においても珍しい「清水芸妓学校」が開校し、戦後復興期でもあることから芸者の需要も急激に増加していきました。経済発展の陰には、必ずといっていいほど花柳界の下支えがあり特に芸者の唄や踊りは、硬い取引の緩衝剤として期待も多く、重要な役割を担ってまいりました。

戦後の好景気の終焉とともに、100人を越えていた芸者も昭和59年には23人になってしまいました。芸者衆の高齢化による減少傾向に歯止めがかからず「このままでは、清水の経済界を裏方で支えてきた花柳界が消えてしまう」と昭和48年に経済界の有志が中心となり清水商工会議所に「清美会」が発足し、花柳界の支援に乗り出していただきました。14年間の活動で4人の新人芸者を輩出し、現在の清水花柳界の中堅として立派に活躍しています。昨年、商工会議者のご尽力で新たにオール静岡として伝統芸能の支援機関「静岡伝統芸能振興会」が発足しました。また、昨年9月には、静岡市の支援で、静岡市内の料亭や紅葉山公園「茶室雲海」で「芸妓の踊り鑑賞会」を開いたところ、929名の参加者があり大反響でした。3月には久能山東照宮本殿において奉納舞を収め、芸妓踊りの鑑賞会を開きました。これらは、芸者文化を静岡市の観光振興の柱の一つとして開催されたもので、私達も精一杯踊らせていただきました。是非、多くの皆様方のご協力を

いただきながら、伝統ある芸妓文化を存続させていきたいと思っております。

現在、静岡と清水の芸者がひとつとなって動いていますが、静岡が2名、清水が10名です。今年は新人2名がデビューしますが、まだまだ芸者の数は足りません。振興会では常時募集していますので、和の文化に興味がある、という子がいれば是非ご紹介ください。私達は今後も一層お稽古に励み、皆さんにご披露する機会も増やしながら新人の発掘と育成に努めて参りたいと思っておりますので、今後共ご愛顧賜りますようお願いいたします。

《スマイル報告》

戸塚敦雄 君 先週の観桜会は大勢の皆様にご参加いただきありがとうございました。親睦グループの皆様大変お世話になりました。

柴田啓之助君 小鈴姉さんを卓話にお迎えできた事に感謝してスマイル。

杉田至弘 君 東京時代からの戦友松下陸朗君の再入会を心から歓迎し、今後のご活躍を祈念してスマイルします。

村松重治 君 お誕生日のお祝いをありがとうございました。還暦です。これからもロータリー活動を頑張ります。

中田盛之 君 お誕生日のお祝いありがとうございました。51歳になりました。益々頑張ります。

杉本幸子 君 4月13日号から「リビング静岡」の題字が全国のネットワークとともにリニューアル致しました。この紙面に浅畑川清掃の記事をご紹介します。今後もお愛読のほど、よろしくお願い致します。

上田直弘 氏 弊社のショールームがいよいよ今週末にリニューアルオープン致します。4/13(土)~14日(日)にオープニングイベント「エネリアにきいてみよ」を開催します。本日お分けいたしましたチラシにいろいろなイベントの案内が記載されています。楽しい企画ですので、お時間の都合がつけば、お子様・お孫様と是非ご来場下さい。また、4月~7月の料理教室のご案内もお配りいたしましたので、新しく、大変広くなった料理教室にも是非ご来場下さい。お願いということでスマイルいたします。

《出席報告》

	会員数	出席	欠席	MU	完全欠席	確定出席率
4/11	57(54)	44	10	-	-	-
4/4	57(52)	39	13	-	-	-
3/28	56(53)	43	10	4	6	88.68%